

增訂
補正

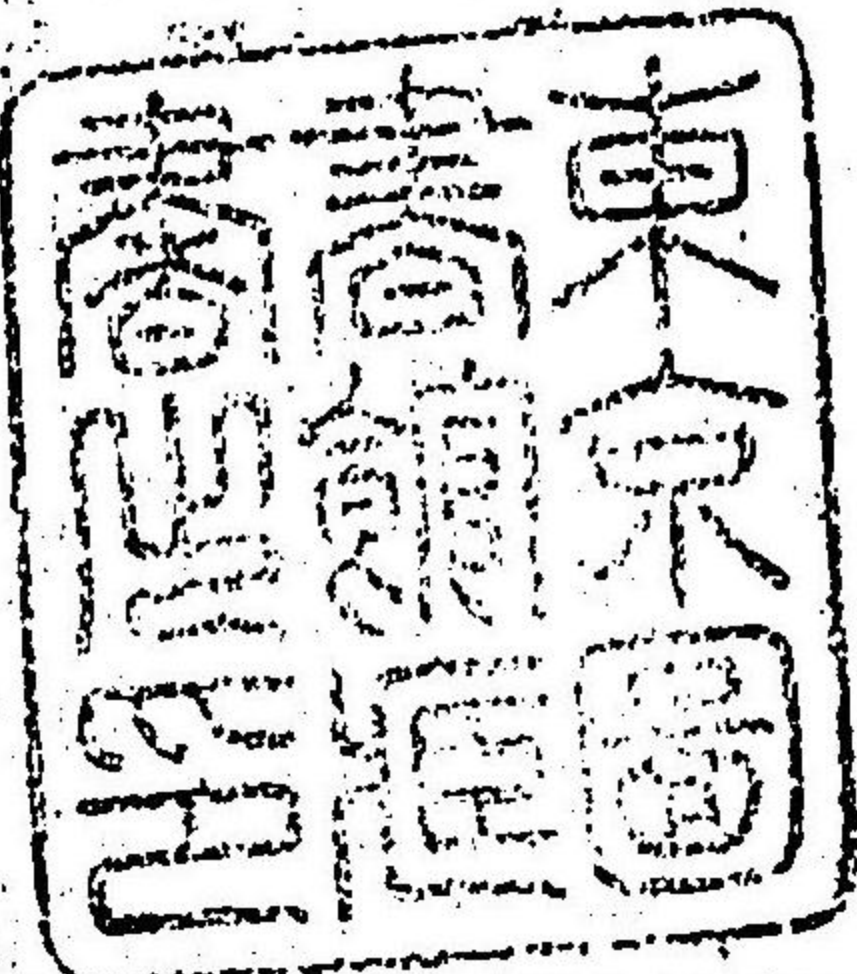
國體大意

下

特38

465

大日本教育會館			
三	四	三	東
三函	一架	七號	冊
四	冊	四	冊



國體大意續編

石村貞一述

曩ニ小學課本ノ乏シキヲ以テ、我神聖忠孝ヲ以テ國ヲ建テ、武ヲ尚ヒ民命ヲ重スル事ヲ記シ、國體大意ト名ク、讀者或ハ云フ、我天祖天壤无窮ノ聖詔アリテ、皇統一系億萬斯年ナル、コレ我國體ナリ、何ソ此呶々ヲ用ント、予曰ク否、聖詔明赫真ニ天日ト其光ヲ同フス、然レトモ、人民急情ニシテ、義務ヲ盡サ、レハ、泰礪河帶

モ其實ヲ見ス、天祖ノ志業亦繼述スヘカラス、
 故ニ億兆一心忠孝ヲ盡シ、而テ後能ク聖詔ヲ
 奉戴スル者ト謂フヘキ乎、茲ニ政教一途、民ヲ
 化シ、民ヲ教ユルハ我國體ナル事ヲ記シ、以テ
 續編ト為ス、是レ亦一片ノ老婆心ナリ、
 明治八年第一月

問テ曰ク
 神聖トハ
 何人ヲ指
 スヤ

我國ハ開國ノ始ニ當リテ、神聖續生ス、故ニ其國
 體ヲ立ル、天地ノ公理ニ基キ、萬古ニ亘リテ變革
 スヘカラサルノ國體ナリ、故ニ此國體ヲ體認シ、
 此國體ニ依憑スルトキハ、天道自ラ行ハレ、人義

自ラ全カルヘシ、コレ他ナシ、神聖ノ人民ヲ愛育
 セシ、盛徳至善、萬世ニ布及スル所以ナリ、故ニ我
 國體ノ立ツ所以ヲ知ル時ハ、即チ道義ノ學ニ發
 明アル事、思ヒ半ハニ過キン、初學宜シク熟思ス
 ヘシ、

聖人ノ名教ヲ設クル、其本意ハ、タ、人民ヲシテ、
 天道天道トハ天然自然ノ道ヲ知ラシメ、人義ヲ修メシムル

ニ在ルヘシ、聖人ハ人民ノ先知先覺ナル者ナリ、

知トハ氣付テ云、覺トハ氣カ付、後生ノ者ハ宜シ
 タル上ニテ、其釋ノ余ルナリ、造次顛沛ニモ、一事ヲ舉ケ、
 ク先聖ノ心ヲ心トシ、

問テ曰ク
 造次顛沛
 トハ何如

一物ヲ處スルニモ、天道人義ニ背カスシテ、聖人ニ愧チス、我心ニ快カラサルコトナキ様ニ心ヲ掛クヘシ、天道人義ト云ヘハ、何カ六ヶ數事ニテ、知り得カタキ様ナレトモ、惡人ニテモ、惡事ヲ為シテ、我心ニ快ヨキ事ハナク、善事ヲナセハ、自然ト我心ニ快ク樂シキナリ、故ニ兇惡ト呼ル、足利尊氏スラ、後醍醐天皇祖宗ノ仇ヲ復シ、王室ノ大耻ヲ雪キ玉フトキ、其自己ニ便ナラサルヲ以テ、更ニ擁立スル所アリ、兩帝統ヲ争フノ状ヲ成シテ、己ノ志ヲ其間ニ成スト雖モ、大義ノ缺ル所

問テ曰ク
尊氏ハ何
帝ヲ擁立
スルヤ

其心ニ快カラサルヲ以テ、常ニ吾レ天下ヲ天子ニ争フニ非ス、天子ト天子ト争フナリト云ヒ、天下ノ義ニ背キ、利ニ趨リ、耻ルナキ者、靡然トシテ之ニ服従スルモ、亦吾レ北朝ノ天子ニ仕フ、足利氏ニ従フニ非スト云フハ、其心ニ快カラサル所アレハナリ、コレ人々固有ノ心ニシテ、即チ天道人義ト云フモノナリ、

順序ヨリ云ヘハ、神聖ノ我國體ヲ立玉フ、本意ヲ知り得サレハ、我國體ヲ知り得カタキカ如シ、然レトモ、能ク國體ヲ知ルトキハ、國體ヲ立テ玉フ

問テ曰ク
然ルヘキ
然ル所以
トハ何如

本意モ、自ラ知り得ル丁アルヘシ、譬ハ画師ノ
画ヲ作ルニ、能ク其形ヲ寫シ得レハ、自ラ其情モ
見ハルヘク、能ク其情ニ通スレハ、自ラ其形モ具
ルコトヲ得ルカ如シ、國體ノ當ニ然ルヘキハ、其
然ル所以アリテ、事ナルヲ熟考スヘシ、
開國ノ始ニ、神聖續生シ玉フコトハ、我邦ハ水土
ノ秀美ニヨリテ、自然ト神聖ヲ生スルト云フ説
アリ、或ハ天神ノ意ヲ以テ神聖ヲ生スルト云フ
説アリ、一ハ究理説トナリ、一ハ宗教説トナル、各
自ノ意見アリ、強テ合一ニスヘカラス、タ、神聖

問テ曰ク
報本反始
トハ何如

ノ德澤ヲ奉戴シ、臣民ノ義務ヲ盡シ、造次顛沛モ
報本反始ノ思ヲ忘ルヘカラス、太古ノ神聖ハ天
子ノ太祖トシテ奉戴スヘシ、造物主トシテ奉祀
スルハ、皇國ノ古典ニアラス、

問テ曰ク
拮据經營
トハ何如

我邦皇統ノ一系萬世ナルコト、天祖天照大神ノ
天壤无窮ノ聖詔ト違ハサルハ、固ヨリ偶然ニア
ラス、コレ神聖國體ヲ立ル、天地ノ公理ニ基キ、聖
皇賢弼、拮据經營ノ盛徳ニ依ルナルヘシ、然ルニ
或ハ我皇統ハ天神ノ定メ玉フ故ニ天壤无窮ナ
リト云フ、是レ神カヲ見テ、帝カヲ知ラサルモノ

問テ曰ク
何レノ法
ヲ以テ人
民ヲ愛育
セシヤ

ナリ、苟モ當初帝業ノ盛大ナルコトハ、帝意ノ人
民ヲ愛育シ玉フコトヲ知レハ、何ソ斯語ヲ為ス
コトヲ得ン、是レ猶松柏ノ數百年ヲ經テ、青々繁
茂スルヲ見テ、松柏ハ必ス數百年繁茂スルモノ
ナリト思ヒ、雨露培植ノ功ニ依テ盛大ニ至リ、无
窮ニ繁茂スルヲ知ラサルカ如シ、天照大神ノ聖
徳固ヨリ天壤无窮ニ布及スト雖モ、歷世天皇ノ
御繼述ニヨラスンハアルヘカラス、故ニ列朝ノ
御功業ヲ思ハサルトキハ、真成ニ皇恩ヲ知ラサ
ズモノト云フヘシ、

問テ曰ク
諾冊ニ尊
トハ何如

天照大神ヨリ、天孫瓊々杵尊ヘノ聖詔ニ曰ク、豐
葦原、是吾子孫可王之地也、爾宜就而治焉、寶祚之
隆、當與天壤无窮矣、依テ我邦ノ帝業ノ起源ヲ考
フルニ、諾冊ニ尊、草昧ノ世ニ出テ、天下ノ蒼生ヲ
愛愍シ、其主ト爲スヘキ者ヲ得ント欲シ玉ヒ、天
照大神ヲシテ高天原ニ統御タラシム、天照大神
ハ高産靈等ノ輔ヲ得テ、終ニ歷世ノ聖業ヲ大成
シ、瓊々杵尊ヲ以テ、天皇ノ位ヲ定メ玉ヒ、賜フニ
三種ノ神器ヲ以テシ、勅スルニ、天壤无窮ノ聖意
ヲ以テシ、付スルニ武甕槌、經津主等ノ良弼ヲ以

國體大意

國體大意

開テ曰ク
大八洲ト
ハ何々ノ
洲ヲ云フ
ヤ

テス、至レリ盡セリト云フヘシ、
謹テ聖詔ノ子孫可王之地トハ、如何ナル義ヅト
考フルニ、大八洲ハ、諾冊二尊ノ經營シ玉フ所ナ
レトモ、人民未タ其處ヲ得サル故ニ、天照大神ハ
二尊ノ御心ヲ心トシ玉ヒ、終ニ群臣ニ命シ下土
ヲ平定セシメ、瓊々杵尊ヲ以テ降臨イタサセ玉
フハ、是レ大八洲ノ人民ヲ愛護シ玉フ、仁心ヨリ
起源スル所ナリ、王タルヘシトハ、王トナリ治ム
ヘキト云フ義ナルヘシ、彼ノ奸雄ノ嗜慾ヲ逞フ
セント欲シテ、暴威ヲ振ヒ、弱民ヲ抑壓シ、地ヲ略

開テ曰ク
黎元トハ
何ヲ指ス
ヤ

シ、自ラ王トナリ、人民ヲ驅役スル義トハ大ニ相
違アルヘシ、我神聖ノ帝位ヲ治メ、百事ヲ興シ玉
フハ、全ク人民ヲ愛育シテ、天地ノ公義ニ依ラシ
ムルノ英志ヨリ出ルモノナリ、故ニ後世崇神天
皇ノ詔ニ云ク、惟我皇祖諸天皇、光臨宸極、豈為一
身、蓋所以司牧人神、經綸天下、故能世闡玄功、時流
至德、今朕奉承大運、愛育黎元、何以聿遵皇祖之蹟、
永保無窮之祚、群卿百僚、竭爾忠貞、共安天下、天皇
ノ詔旨實ニ能ク天照大神ノ詔意ヲ詔述スト云
ヘシ、天皇一百十三歳ニテ、崩御アラセ玉フニ、其

開テ曰ク
茨田堤ハ
何ノ地ニ
アルヤ

年河内ノ狹山埴田、水少キヲ以テ、池溝ヲ開キ、民
業ヲ寛フシ玉フ等ノコトアリ、御老年ニ至リテ
モ、政事ニ御勤勞為シ玉フコト斯ノ如シ、又仁德
天皇ノ渠ヲ宮北ニ穿チテ、海ニ通シ、茨田堤ヲ築
テ、北河ヲ防キ、大溝ヲ山背栗隈縣ニ鑿テ、田ニ溉
キ、和珥池ヲ作り、横野堤ヲ築キ、橋ヲ猪甘津ニ造
リ、又大溝ヲ感玖ニ鑿チ、石河水ヲ引テ、鈴鹿豊浦
等ノ地ニ溉キ、田四萬餘頃ヲ墾スル如キハ、皆コ
ノ經濟ノ業、人民ヲ愛育スル仁心ヨリ發ス、故ニ
利ヲ興シ、害ヲ除ク事、至急ニアルモ、猶人ヲ役ス

開テ曰ク
紀トハ何
ソヤ

ルニ農隙ヲ以テス、世ノ功利ヲ貪ル者ノ比ニア
ラス、人民ノ恩澤ヲ被ル深シト謂フヘシ、且今日
桑ヲ植ヘ蠶ヲ養ヒ、以テ天下ヲ利スルモ、雄畧天
皇ノ國縣ニ詔シテ、桑ヲ植シムルニヨリテ、之ヲ
見レハ、乃チ其遺利ヲ萬世ニ被ルモノナリ、其他
列朝ノ垂訓、人民ヲ愛育シ玉フ者ニアラサルハ
ナシ、紀ヲ觀テ知ルヘシ、
我皇統ノ連綿トシテ、千歳一日ノ如クナルハ、君
臣ノ義明カナルヲ以テナリ、夫レ各國角立ノ君
ニ仕ルカ如キハ、其道合ハサレハ、去テ他ニ往シ

問テ曰ク
革命トハ
何如

モ可ナリ、又時々革命ノ君ニ仕フルカ如キハ、二
君ニ仕ヘサルノ義ヲ守リ、隱居センモ可ナリ、皇
國ノ如キハ、君ハ本コレ開國ノ太神、其子孫王タ
ルヘキノ地ニ、王タラシメ玉フ所ノ者ナレハ、率
土ノ臣ミナ一君ヲ仰カサルヘカラス、况ヤ仕ヘ
テ其俸祿ヲ辱フスル者ニ於テヤ、假令君君タラ
ストモ、臣ハ臣タルヘキ道ヲ盡サ、ルヘケンヤ、
ユエニ不忠不臣ノ者ハ、獨君上ノ臣タラサルノ
ミナラス、開國太神ノ臣タラサルナリ、且君上モ
就而治焉ノ神勅ヲ奉シ、敬神愛民ノ獻慮、且暮懈

問テ曰ク
琴瑟ヲ鼓
スル如シ
トハ何如

リ玉ハサレハ、其治メ玉フ所ノ民ニシテ、奉職ス
ル者、拮据勉勵、其輔佐ヲナサ、ルヘカラス、斯ノ
如ク君臣能ク合スルコト、琴瑟ヲ鼓スル如ニシ
テ、天壤无窮ノ聖詔虚シカラス、凡ソ君臣ノ義ヲ
云ヘハ、君ハ天ノ能ク覆フカ如ク、大小ノ臣民ヲ
潤シテ其徳ヒロシ、臣ハ地ノ能ク載ルカ如ク、百
事ヲ任持シテ、各自ノ務ニ勞ス、天若地ナクシハ、
何レヨリシテコレヲ仰カン、地若シ天ナクシハ、
何レヨリシテコレヲ潤サン、斯ノ如ク能ク上下
ノ別ヲ辨ヘテ、相依ルノ親ヲ存シ、上ハ下ヲ禮シ、

問テ曰ク
主ヲ賣ル
トハ何如

下ハ上ヲ敬スルヲ、君臣ノ義トスルナリ、然レト
モ、若シ我君ヲ愚ナリ昏ナリトシテ、他ニ往キ君
ヲ求ルハ、我父ヲ頑愚トシテ、家ヲ出テ、隣家ノ翁
ヲ父トスルニ齊シ、コレ大義ヲ缺クト云フヘシ、
古来國強ク勢盛シナルトキハ、孰レモ忠勤ヲ勵
ムモノナリ、國衰ヘ勢去ルニ至テハ、志ヲ變シ、敵
ニ降り、主ヲ賣ル類寡カラス、故ニ人ハ晚節ヲ全
フスルニ非レハ、何程才智學藝アリトモ、亦何ソ
尊フニ足ンヤ、明主ニ忠アルハ珍ラシカラス、暗
主ニ忠ナルコソ真忠ナレ、慈父ニ孝ナルハ、珍ラ

問テ曰ク
舐犢ノ愛
トハ何如

シカラス、頑父ニ孝ナルコソ、真孝ナレ、賞譽セラ
レテ忠孝ナルコト、珍ラシカラス、責罰セラレテ
忠孝ナルコソ、真ノ忠孝ナレ、臣子タル者、嗜ムヘ
キコト、實ニ愛ニアリ、
父ノ子ニ於ル、慈惠ノ撫育、勸誡ノ訓誨ナカルヘ
カラス、子ノ父ニ於ル、孝養ノ務、百事ノ勞ヲ任セ
スンハアルヘカラス、斯ノ如ク慈惠孝養ノ宜キ
アリ、若コノ宜キヲ失ヘハ、愛モ舐犢ノ愛ニシテ、
慈ト云ヘカラス、艱モ犬馬ノ養ニシテ、孝ト云ヘ
カラス、慈孝互ニ行レテ、始テ父子ノ親ヲ成スト

問テ曰ク
皇孫ノ名
ハ何ト云
ヤ

謂ヘシ、故ニ諾冊ニ尊生ミ玉ヘル所ノ子ヲ能ク
訓誨シテ、其治ル所ヲ定メ玉フ、中ニモ天照大神
ノ神聖ヲ選シテ、天下ノ主トナス、大神モ亦コレ
ニ則リテ、皇孫ヲ訓誨シ玉ヒ、此鏡ヲミルコト、我
ヲ見ルカ如クセヨト、警シメ、王タルヘキ地ニ就
テコレヲ沼メヨト、勅シテ、天下ノ主トシ玉ヘリ、
二尊ノ大神ニ於ル、大神ノ皇孫ニ於ル、皆其子ニ
撫育慈惠ノ親ヲ為スコト、斯ノ如シ、皇孫ノ大神
ニ於ル、大神ノ二尊ニ於ル、皆其父母ニ隨順シテ、
孝養ノ親ミヲ全フスルコト、斯ノ如シ、コレ天下

問テ曰ク
婦其夫ニ
先ツテ
トハ何如

後世ノ聖則ナリ、豈コレヲ仰キ、コレニ則ラサル
ベケンヤ、且夫婦ノ別モ、諾冊ニ尊始テ此道ヲ成
シ、コレヲ行ヒ玉フニ、婦其夫ニ先ツテ竟ニ幸ヲ
得ス、コレヲ彼ノ天神ニ正シテ、始テ其宜キヲ得
玉ヘリ、凡ソ夫婦ノ際ハ、其情得テ言カタキ者ア
リ、故ニ神明モ斯ノ如ク、慇勤ニ其得失ヲ彰シ、以
テ天下後世ノ龜鑑トナシ玉ヘリ、又開屋媛ノ皇
孫ニ於ルカ如キ、所謂貞女ハ二夫ヲナラヘサル
ノ、摸範ヲ示シ玉ヘル者ナリ、是レモ亦我國體ナ
リ、婦女子タルモノ、コレニ則ラスンハアルヘカ

問テ曰ク
開屋媛ハ
何ヲナセ
シヤ

問テ曰ク
開屋媛ハ
何ヲナセ
シヤ

ラス、

仁徳天皇ノ詔ニ、天之立君爲民トノ玉ヘルハ、人君自ラ戒ル所ナリ、蓋シ人君ノ天職ハ萬民ヲ治ルコトナリ、民ノ爲メノ君ナレハ、民ナケレハ君ニモ及ハス、故ニ民ヲ本トス、是等ノ處ハ、篤ト味フヘシ、吾國ハ辱ケナクモ、國常立尊ヨリ、代々ノ神々ヲ經テ、諾冊ニ尊ニ至リ、天下ノ主タル天祖天照大神ヲ生ミ玉ヘリ、夫レヨリ以來列聖相承ケ、寶祚ノ隆シナル、天壤ト窮リナク、萬々代ノ後ニ傳ハルコトナレハ、國土山川草木人民皆天祖

問テ曰ク
國常立尊
ヨリ天照
大神マテ
何世ナリ
シヤ

問テ曰ク
天下ハ一
人ノ天下
ニ非スト
ハ誰レノ
言ソヤ

以來、保守護持シ玉フ者ナリ、故ニ天下ヨリ視レハ、人君程尊キ者ハナシ、人君ヨリミレハ、人民程貴キ者ハナシ、此君民ハ、開闢以來一日モ相離レ得ル者ニアラス、故ニ君アレハ民アリ、君ナケレハ民ナシ、又民アレハ君アリ、民ナケレハ君ナシ、此義ヲ辨セスレテ、天下ハ一人ノ天下ニ非ス、天下ノ天下ナト云フ者ハ、國體ヲ知ラサル者ト云ヘシ、

國體ノ赫々タルハ、天日ノ如シ、眼アルモノ、誰カ天日ヲ見サル者アラシヤ、然レトモ眼疾アリ、其

問テ曰ク
北條義時
足利尊氏
ハイカナ
ル事ヲナ
セシヤ

明ヲ失フ者ハ、天日ノ何物タルコトヲ知ラス、國體確立、千古ニ昭々タリト雖モ、道義ノ心ヲ失ヒ、公明ノ眼ヲ亡スルトキハ、國體ノ何物タルヲ見ル能ハス、彼ノ北條義時、足利尊氏等ノ如キハ、眞ニ目ナキ者ト謂フヘシ、苟モ我國ノ人民タル者ハ、道義ノ心ヲ存シ、公明ノ眼ヲ具シ、國體ヲ錯見スルコトナカレ、固ク國體ヲ體認シ、國體ニ依憑スル者ハ、忠臣義子ノ範圍ニ入ル事ヲ得ヘシ、國體ヲ維持スル事ハ、其任在官ノ人ニ非サレハ、一人ノ企及スヘキコトニ非スト思フ者アリ、是

問テ曰ク
小善ヲ抛
テ小惡ヲ
忽セニス
トハ何如

レ大ニ非ナリ、一人維持スレハ、一人ノ功ヲ爲シ、千人維持スレハ、千人ノ功ヲナス、一燭ヲ燒ケハ、一燭ノ明アリ、萬燈ヲ点スレハ、萬燈ノ明アルカ如シ、一人ハ一人ノ分ヲ盡スコトヲ心ニ掛クヘシ、善ヲ爲ント欲セハ、小善トテ抛ツナカレ、惡ヲ慎シムニハ、小惡トテ忽セニスルナカレ、我邦ノ國體ハ、祖宗ノ立テ玉フ所ナレハ、天皇ハ祖宗ノ御心ヲ御心トシテ、維持シ玉ヒ、臣民ハ當初祖宗ヲ輔佐セシ、臣民ノ心ヲ心トシテ、斯クシテハ、祖宗ノ御心ニ背ムキハセヌカ、斯クスレハ、

問テ曰ク
元兵寇セ
シハ何帝
ノ朝ソヤ

祖宗ノ御盛業ヲ輔佐スルコトヲ得ヘキヤト、在
官非官ニカ、ハラス、君臣ノ義ヲ、暫時モ忘ル、
コトナク、各其地其位ニテ、國體ヲ維持スルコト
ニ注意スヘシ、是レ人民一般ノ職分ナリ然ルニ
世人動モスレハ云フ、我國ハ神國ナリ、神能ク國
ヲ維持ス、中古元兵ノ西海ニ寇スルヤ、皇祖ノ神
威赫怒シテ、忽チ風雨ヲ起シ、以テ其全軍ヲ殲ニ
スト、神威窈冥、固ヨリ人智ノ測ルコト能ハサル
所ト雖モ、先ツ後龜山帝、及ヒ北條時宗、断然身ヲ
致スノ至誠アリテ、然ル後チ、天地神明モヨク力

問テ曰ク
忠孝信義
ノ人トナ
ラシメサ
レハ何ノ
害アリヤ

ヲ致スヲ得、恃ムヘキハ人功ニアルノミ、若シ徒
ラニ神威ヲ恃ミ、祈禳禱祝シテ、備ヘテ設ケサレ
ハ、亦危カラスヤ、後ノ國體ヲ維持スル者、豈獨リ
神威ヲ恃テ、人事ヲ懈ルヘクシヤ、
祖宗ノ國體ヲ立玉フ、御本意ハ人々ヲシテ、忠孝
信義ノ人トナラシメン為ナリ、忠孝ノ行ヒテ為
シメントスルニハ、衣食ヲ足ス事ヲ要務トス、兵
革ヲ治メ、暴惡ヲ懲シ、國ヲ富シ、兵ヲ強フスルモ、
唯人民ノ嗜慾ヲ充實セシムルニ止ルニハ非ス、
人民ヲシテ、忠孝信義ノ人ト為ラシメサレハ、又

問テ曰ク
元共寇セ
シハ何帝
ノ朝ソヤ

祖宗ノ御盛業ヲ輔佐スルコトヲ得ヘキヤト、在
官非官ニカ、ハラス、君臣ノ義ヲ、暫時モ忘ル、
コトナク、各其地其位ニテ、國體ヲ維持スルコト
ニ注意スヘシ、是レ人民一般ノ職分ナリ然ルニ
世人動モスレハ云フ、我國ハ神國ナリ、神能ク國
ヲ維持ス、中古元兵ノ西海ニ寇スルヤ、皇祖ノ神
威赫怒シテ、忽チ風雨ヲ起シ、以テ其全軍ヲ殲ニ
スト、神威竊冥、固ヨリ人智ノ測ルコト能ハサル
所ト雖モ、先ツ後龜山帝、及ヒ北條時宗、断然身ヲ
致スノ至誠アリテ、然ル後チ、天地神明モヨク力

問テ曰ク
忠孝信義
ノ人トナ
ラシメサ
レハ何ノ
害アリヤ

ヲ致スヲ得、恃ムヘキハ人功ニアルノミ、若シ徒
ラニ神威ヲ恃ミ、祈禳禱祝シテ、備ヘテ設ケサレ
ハ、亦危カラスヤ、後ノ國體ヲ維持スル者、豈獨リ
神威ヲ恃テ、人事ヲ懈ルヘクシヤ、
祖宗ノ國體ヲ立玉フ、御本意ハ人々ヲシテ、忠孝
信義ノ人トナラシメン為ナリ、忠孝ノ行ヒテ為
シメントスルニハ、衣食ヲ足ス事ヲ要務トス、兵
革ヲ治メ、暴惡ヲ懲シ、國ヲ富シ、兵ヲ強フスルモ、
唯人民ノ嗜慾ヲ充實セシムルニ止ルニハ非ス、
人民ヲシテ、忠孝信義ノ人ト為ラシメサレハ、人

問テ曰ク
人ト禽獸
トノ異ナ
ルコトハ
イカナル
処ニアリ
ヤ

禽獸ト異ナルコトナシ、祖宗ノ人民ヲ愛育スル
必ス養ト教トアルナリ、故ニ天皇ハ億兆ノ君師
ト云ヘリ、

凡ソ人臣タル者ハ未生ノ前ヨリ君恩ニ浴シ、已
ニ生ル、ヤ一衣一食ヨリ、一田一廬ニ至ル迄、君
恩ニ非ルハナシ、況ンヤ重祿高位ヲ世々ニスル
者ヲヤ、身體髮膚父母ノ賜ヲ所ト云フトモ、頂ヲ
摩テ踵ニ至ルマテ、皆君ノ賜物ニ非ルハナシ、瞑
目シテ此身根本ノ来由ヲ思ヘハ、感徼ノ心悠然
トシテ興リ、報効ノ心勃乎トシテ生ス、是レ人臣

問テ曰ク
死生休戚
トハ何如

又問フ摸
範トハ何
如

ノ義ナリ、此義アルヲ以テ、君ト死生休戚ヲ同フ
シ、死ニ至ルト雖モ、君ヲ棄去ルヘキ道絶テナシ、
世ノ君ニ事ルコトヲ論スル者、常ニ功業立サレ
ハ、國家ニ益ナシト云フ、然レトモ、風雲相會セサ
レハ、功業立難シ、假令ヒ功業ナクトモ、人臣ノ道
ヲ失ハス、永ク後世ノ摸範トナレハ、必ス其風ヲ
觀感シテ、興起スル者アリ、遂ニハ其風一定シテ、
賢愚貴賤オシナヘテ、節義ヲ崇尚スル様ニナル
ナリ、然レハ其身ニ於テ、功業名譽ナキ如クナレ
トモ、千百歳ニ亘リテ、其忠タル豈舉テ數フヘク

ンヤ、是ヲ大忠ト云ナリ、コレ我國體上ヨリ出来ル所ナリ、

問テ曰ク
瑕瑾トハ
何如

愛國ノ義ニ兩條アリ、此國ハ天皇ノ國ナリ、故ニ國體ヲ欠ク事アリテハ、君臣ノ瑕瑾ナリ、一人忠孝ノ行ヲ失フトキハ、國體ニ於テ一人分ノ瑕瑾ヲ生スル故ニ、寸分モ國辱ナキ様ニト心掛ケ、富強ナラン事ヲ欲スルハ真ノ愛國ト謂フヘシ、是レ即チ愛國ハ愛君ヨリ起ルモノナリ、又愛國ハ家ヲ愛シ身ヲ愛スルト、大小ノ異アルノミニテ、苟モ我國ヲ愛セサルトキハ、我身ヲ愛セサルニ

問テ曰ク
毫釐千里
ノ差トハ
何如

同シク、災ヒ其身ニ及フトアルヘシト云フ、是レ利心ヨリ發スル愛國ニシテ、義心ヨリ發スル者ト異リ、苟モ利心ヨリ發スルトキハ、我身ノ損益ヲ校量シ、終ニハ君ヲ棄テ、他人ヲ君トスルニ至ルヘシ、義ト利トノ分界ハ、毫釐ヨリ千里ノ差別ヲ生ス、畏レ且慎シマサルヘケンヤ、

我邦ハ古ヨリ風化ヲ尊フ故ニ、其教モ專ラ事實ニ存ス、天照大神ノ瓊々杵尊ニ、三種ノ神器ヲ賜フモ、コノ神器ニ智仁勇ノ三徳ヲ寓ス、鏡ハ明ナリ、劍ハ武ナリ、玉ハ仁ナリ、徳ヲ玉ニ比シ、明智ヲ

問テ曰ク
六百年來
ノ弊トハ
何ヲ云フ
ヤ

鏡ニ比シ、勇武ヲ劍ニ比シ以テ鴻基ヲ建ツ、故ニ
上ノ好ム所ハ、下必ス是ヲ好ムハ、外國ニアリテ
モ、固ヨリ然リト雖モ、皇國ニハ、殊ニ其風習アリ、
是レ何事モ、上古ヨリ實事ヲ以テ示諭スル風習
アレハナリ、故ニ今日政制ヲ一變シ、一朝ニシテ
六百年來ノ弊風ヲ革除シ、廢藩置縣ノ大事業ヲ
為シ、又廣ク萬國ノ長技ヲ采用スルニモ、數年ノ
間ニシテ、大ニ工藝ノ進歩スルハ、是レミナ古來
ヨリ上ノ為ス所、下コレニ從フノ風習ニ基ヒス
ト云ヘシ、

問テ曰ク
所當然ト
所以然ノ
差ヒ何如

政教ハ一途ナリ、政ハ人民ヲシテ、各々其務ムヘ
キ、所當然ノ事ヲ行ハシメテ、非禮非義ニ陷入シ
マス、其天然固有ノ本性ヲ保全シ、其天然固有ノ
知識ヲ暢達セシムル為メ、其制ヲ立テ、其令ヲ施
シ、之ニ依ラシメ、之ヲ守ラシム、是レ政ナリ、教ハ
人民ヲシテ、各々其務ムヘキ、所以然ノ理ヲ知ラ
シメ、此政令ヲ施スハ、此理ニ依リ、此制度ヲ立ル
ハ此義ニ據ルト、政事ノ本意ヲ了得セシムル、是
レ教ナリ、譬ヘハ錦繡ニ表裏アルカ如シ、表ニ花
鳥ノ模様ヲ織成シタルヲ、裏ヨリ見レハ五線ノ

絲ノ其模様ヲ織出ス本ヲ知り得ルカ如シ、故ニ政ヲ以テ身行ヲ修メシメ、教ヲ以テ心術ヲ正サシム、政教ハ一物ノ表裏アルカ如シ、兩途ニ非サルハ、是レ我國體ナリ

問テ曰ク
治教宗教
ノ同異何
如

教ニ治教ト宗教トアリ、近來西洋ノ風俗ヲ見聞スル者ノ言ニ云フ、政ト教トハ二途ナリ、政ハ君民共和等種々ノ政体アリ、各國其宜キニ隨ヒ之ヲ行フ、教ハ人々ノ信向ニ任セ、政府ヨリ敢テ之ヲ束縛セスト、コレ即チ宗教ニシテ、治教ニハアラサルナリ、宗教ハサモアルヘシ、治教ハ法律ト

問テ曰ク
孝徳帝以
來幾回變
革アリシ
ヤ

並へ行ハスンハアルヘカラザルナリ、國體ハ千歳不易ト雖モ、制度ハ時ノ宜キニ隨フモノナリ、故ニ孝徳天皇以來、數々變革アレトモ、ミナ其弊ヲ改メテ、神聖ノ舊章ニ率由ス、故ニ大化元年七月、左右大臣ニ詔シテ曰ク、當遵上古聖王之跡以治天下、又宜有信於天下、又明治元年戊辰ノ春、詔シテ天下ニ告ケ玉フニモ、復古一新ノ盛意ヲ以テシ、上古神聖ノ清風ニ基キ、從前ノ汙俗ヲ一變ス、コレ一新即チ復古ナリ、然シテ萬國ノ交際、彼此親ミテ通シ、彼ノ長技ヲ採用シ玉フ

問テ曰ク
學校ヲ建
テ教院ヲ
設クル何
ノ年ニ始
ルヤ

ハ、コレ一新ヲ以テ復古ヲ潤色スルトコロナリ、
コレ全ク新奇ノ事ヲ好ムニ非ラス、億兆ヲ保安
セント欲スル、仁心ヨリ出ルモノナリ、故ニ百姓
ノ言路ヲ開テ、天下ノ公議ヲ採リ、諸國ノ品物ヲ
集メテ、都鄙ノ受用ヲ足ラシメ、學校ヲ建テ、教院
ヲ設ケテ、人民ノ知識ヲ開キ、修善ノ方向ヲ知ラ
シメ、律法ヲ正シ、罪過ヲ詳ニシテ、人民ノ畏慎ヲ
勸メ、止惡ノ端緒ヲ知ラシムル等一トシテ、保護
愛育ノ術ナラサルハナシ、今上天皇ノ往歷ヲ繼
キ、來哲ヲ開キ玉フコト、斯ノ如シ、天下ノ臣民夕

問テ曰ク
虚器ヲ擁
ストハ何
如

ルモノ、宜シク大化ノ明詔ヲ奉承シ、明治ノ聖旨
ヲ體認シテ、信ヲ天下ニ失ハスンハ、國體ヲ知ル
ニ庶幾スヘキ乎、
政權ノ武臣ニ遷ルコト、賴朝以來六百餘年、朝廷
殆ント虚器ヲ擁スルモノ、如シ、而ルヲ、今上天
皇一旦ニシテ之ヲ収ム、千歲ノ一機ト云ヘシ、コ
レ固ヨリ天皇ノ睿明、輔弼ノ盡力ニ出ルト雖モ、
祖宗ノ神徳、列聖ノ治教、天下人民ノ骨髓ニ徹シ、
三尺ノ童子モ、大義名分ヲ辨スルヲ以テナリ、是
ヲ以テ東奥ノ逆賊モ、皆城ヲ出テ錦旗ノ下ニ降

明治九年
改テ三府三
十五縣ト為
シ十三年又
一縣ヲ増ス
問テ曰ク
台灣ノ役
ハ何ノ年
ニアリヤ
明治十二
年琉球藩
ヲ廢シテ
沖繩縣ヲ
置ク

伏シ、七道ノ諸侯モ、競テ版籍ヲ奉還シ、天下舉テ
朝廷ニ歸シ、政權忽チ古ニ復ス、故ニ海内ヲ分テ
三府六十縣トナシ、蝦夷ヲ開テ北海道トナシ、琉
球ヲ封シテ藩トナス、既ニシテ其藩民台灣土蕃
ノ為ニ、傷害セラル、者アリ、之ヲ以テ師ヲ起シ
台灣ヲ征シテ土蕃ヲ懲戒セシム、其藩民ヲ愛育
スル猶斯ノ如シ、況ヤ内地ノ民ニ於ルチヤ、其恩
澤ヲ被ル厚キ、故ニ報効ノ意薄カラス、千百歳一
日ノ如クナル者ハ、列聖祖宗ノ御心ヲ御心トナ
シ、天下ヲ統治シ玉フニ依ルナリ、天壤无窮ノ寶

問テ曰ク
四体トハ
何如

祚豈偶然ナランヤ、
我國人情ノ敦厚ナル、コレ先皇仁教ノ化育スル
所ナリ、故ニ祭ヲ以テ政ヲ為シ、政ヲ以テ祭ト為
ス、蓋シ人情ノ厚キニ基セリ、夫レ祭祀ハ人情ニ
出ツ、人情ノ林ム能ハサル所、見ハレテ祭祀ト為
ル、父母ノ死スル、其四體ヲ以テ、溝壑ニ委棄スル
能ハサル、コレ人情ニシテ、是レ即チ天然固有ノ
條理ナリ、是レ人ト禽獸ト異ナル所以ナリ、故ニ
之ニ供スルニ平生嗜好スル所ノ物ヲ以テス、是
レ祭祀ナリ、其時ニ當テ、鬼神ノ状情如何ヲ問フ

問テ云ク
陽魂陰魄
ノ事ヲ説
カサレハ
何ヲアテ
ニ祭ルヤ

ヲ用ユヘカラス、然ルニ強テ鬼神ノ有死ヲ論シ、
或ハ陽魂陰魄ノ説ヲ創メ、黍稷稻粱ヲ以テ、陰魄
ヲ養ヒ、牛羊豕ヲ以テ陽魂ヲ養フノ説ヲ為スモ
亦其理ヲ得ルモノト謂フヘカラス、苟モ人ノ性
ヲ具スル者、人ノ情ヲ具セザルモノナシ、性ナル
者ハ、人々ノ固有ニシテ、改ムヘカラサル者ナリ、
情ナル者ハ、人々ニテ異ナル所以ノモノナリ、人
情一タヒ變シテ、終ニ習俗トナル、我國ノ祭祀ヲ
以テ政ト為スハ、是レ上下祖宗ヲ追念スルノ厚
キニ出ツ、我皇國ハ天祖ノ建ル所ナリ、是ヲ以テ

問テ曰ク
何故ニ祭
ヲ嚴密ニ
スルヤ

天皇ハ天皇ヲ追念シテ、天祖ノ鴻業ヲ無窮ニ傳
ヘシト欲シ、臣民ハ其祖先ノ天祖ヲ補翼セシ、志
業ヲ繼述シ、千萬年一日ノ如シ、是レ我皇國ノ人
情ニテ、祖先ニ報スル心ナリ、是ノ心ヲ以テ祖先
ニ事ル、是レ祭祀ナリ、
祭祀ノ式ニ至テモ、各國其式ヲ異ニス、我祭祀ハ
我國ニ始マリ、他國ニ倣フニ非ス、我天皇ノ天照
大神ヲ祭り玉フ、其式嚴密至ラサル所ナシ、其供
スル所、實ニ陸ノ産スル所、海ノ生スル所、生ト熟
ト乾ト醃トヲ問ハス、悉ク供ヘサルナシ、之レニ

開テ曰ク
盥擲織縫
ノ器ヲ具
フルトハ
何如

加フルニ、衣服ヨリ盥擲織縫ノ器ニ至ルマテ、一
モ具ハラサル者ナシ、死ニ事フ生ニ事ル如シ、是
レ我國ノ風俗ニシテ、死者ヲ死視セサルノ風俗
ニ出ツ、其式固ヨリ貴賤ニ依リ、同異アルヘシト
雖モ、其之ヲ行フ所以ニ至ツテハ、亦夕同一ノ性
情ニ出ルト謂フヘシ、

土地人民ヲ以テ、祖先ノ物ト為シ、之ヲ私有セス、
之ヲ守リ之ヲ治ムル、我職分ノ當然ト為シ、一毫
モ憍慢ノ心ヲ生セサルハ、我國ノ人情ナリ、能ク
此情ニ通シ、其事ヲ修ムル者ヲ、能ク政ヲ為スト

問テ曰ク
死者ヲ祭
ルヲ以テ
快トスル
ヤ祭ヲサ
ルヲ以テ
快トスル
ヤ

謂フ、其之ニ反スル者、之ヲ不敬ト為ス、
西法ハ死者ヲ祭祀セス、我死者ヲ祭祀スルヲ以
テ徒設ト為ス、或ハ云フ、死者ハ食スル能ハス、而
シテ飲食ヲ供スル、固ニ益无シ、光陰ハ貴重ナリ、
之ヲ徒費シテ祭祀ヲ修ム、真ニ人事ニ便ナラス
ト、是レ西法ノ我國ニ異ナル所ナリ、近時西學ニ
従事スル者、其學ニ依リ、終ニ西俗ヲ喜ヒ、我國ノ
人情ヲ疑フ者アリ、古人云ク其志ニ生シテ、其事
ニ害アリ、其事ニ生シテ其政ニ害アリト、西學ニ
従事スル者、宜ク反省スヘシ、

問テ曰ク
稱謂トハ
何如

古昔神祇官ヲ以テ、諸官省ノ上ニ置ク、是レ祖宗
ヲ尊崇スル所以ナリ、鬼神ヲ假リテ教ヲ為スニ
アラス、我朝英ノ祭祀スル所ノ神祇ナル者ハ、國
土ニ功アル人ヲ祭祀スルナリ、古ヨリ天神地祇
ノ名アリト雖モ、亦タ支那ニ稱セル天神地祇ト
其實ヲ異ニス、稱謂ニ依テ其實ヲ誤ル事勿レ、彼
ノ神祇官ヲ重スルハ、人々ヲシテ、其祖先ヲ尊崇
シ、其家業ヲ以テ私事トセス、其子孫ニ謹慎ノ道
ヲ教ヘシメシ為ナリ、故ニ列聖人民ヲ愛育セシ
盛德至善、萬世ニ布及ス、凡ソ人民タル者、日夜奉

問テ曰ク
鎮火鎮魂
導饗等ト
ハ何如

戴忘ルナクシハ、始テ皇國ノ人民タルニ愧チス
シテ、天壤無窮ノ神勅モ將サニ赫々光ヲ加フル
アラントス、慎マサルヘケンヤ、
我國ハ穀ヲ以テ食トナス、故ニ農ヲ重シス、天祖
齋庭ノ穂用ヒ以テ蒼生ヲ頤養シ、而テ其収獲ス
ハ所、貢キ以テ嘗祭ノ用ニ供シ、以テ其本ニ報ス
ルノ誠ヲ輸ス、而シテ大嘗ノ祭、國ノ重典タリ、凡
ソ大小ノ諸祭、上世ニ權輿シテ、列聖ノ紹述ニ備
ル、祈年ハ民ノ為ニ豊熟ヲ求メ、月次ハ邦家ノ泰
寧ヲ禱ル、及ヒ鎮火鎮魂導饗等ノ如キ、福ヲ祈リ

災ヲ禳ヒ、仁民愛物ノ政ト並行シテ、以テ相資リ
 相濟ス、夫レ祭祀ハ人情ノ止ム能ハサルニ始リ、
 民徳ノ厚キヨリ出ツ、上之ヲ行ヒ、下之ヲ助ケ、上
 下各々其徳ヲ正フシテ、而後祭事始テ修マリ、政
 事全ク成ルト謂フヘシ、祭ヲ以テ政ト為シ、政ヲ
 以テ祭ト為スハ、是レ我國ノ國體ニシテ、生ヲ此
 國ニ得ル者、孰レカ其幸福ヲ祝セサラン哉、

國體大意續編 畢

備考

泰礪河帶 史記ノ高祖功臣年表ニアル誓ノ語ナリ 造次顛沛 セハシクミダレタルトキ 拮据 手口トモニ作スト

靡然 ナビクカタチ 賢弼 カシコキタスケ 當初 ソノカミ 培植 ツチカセ 繼述 ツギ

草昧 ケセノヒラケヌトキ 高天原 今ノ大和ノ國高市郡ノ下 諾冊 イサナキノミコトイサナミノミユトヲ云 武甕槌

經津主良弼 賢弼ト同シ 大八洲 大日本豊秋津洲、伊豫二名洲、筑紫洲、隱岐洲、佐渡洲、越洲、大洲、吉備子洲、一ニ淡路洲ヲ加ヘテ大洲

光臨宸極 天子ノ位ニ即ク 經綸天下 天下ヲ治メル 世闡玄功 オホヒナ

黎元 クシヤウ 聿遵 シタガフ 竭挾山埴田茨田山背栗隈

縣和珥池橫野猪甘津感玖鈴鹿豊浦 地名 鑿 コシ

垂訓 オシ 連綿 ツ 革命 前代ヲ攻メシテ君トナル支那ナトノコトヲ云 琴瑟 ヒソ 鼓スルカ

如シ ヨク調ヒ治リタルヲ云フ 晚節 身ノオハ 舐犢ノ愛 牛ノ小牛ヲネブリマハシテ愛スル 犬馬ノ

養クハセルバカリノ開屋ヤ煖ヒノ摸ガ範ハン國クニ常トクナ立ミツ尊メ龜キ鑑カン

開闢カイハク赫カク々々錯サカ見ケン企キ及ク維イ持チ赫カク

怒オホヒニ竊ヨウ冥メイ鐵テツ祈キ禳キョウ禱トウ祝イノリ休キヨ戚セキ瑕カ

瑾キン校カウ量リョウ毫ガウ釐リン祈キ當トウ然ゼン所レ以ヨ然セン

錦キン繡シウ五ゴ絲シ億イ兆テウ往ワウ聖セイ來ライ哲テツ來ライ哲テツ來ライ哲テツ

幾キ錦キン旗キ版ハン籍セキ土ト蕃ハン委イ棄キ狀ジヤウ

情シヨウ鬼キ神シン陽ヤウ魂コン陰イン魄ハク精セイ爽スワウ陽ヤウナルナルモモノノハハ夫フニニ上上リリ補ホ翼ヨウ

乾カン醯イ鹽エン櫛シ僇ケウ慢マン稱セイ謂イ天テン神シン地チ祗ヂ

權ケン輿ヨ鎮チン火ホ鎮チン魂コン鎮チン魂コン鎮チン魂コン鎮チン魂コン

明治十四年二月廿四日 版權免許 六月 出版

定價二拾錢

著者兼出版人

山口縣平民 石村 貞一

發賣人

東京麹町區上六番町四番地 吉川 半七

同

同 東生 龜次郎

同

同 坂上 半七

同

同 松 九兵衛

大坂心齋橋筋壹丁目四十三番地

